

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653番地1		
自己評価作成日	令和 4年 1月 24日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 4年 3月 3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

現在コロナ禍の状況で職員全員が感染症対策を徹底し自覚をもって業務に就いています。外出・面会が制限されている今、入居されている皆様にはまごころで季節を感じ安全に楽しく生活して頂けるよう支援しております。皆様が過ごされる共有スペースはいつも清潔を心がけ明るく居心地の良い空間となるよう努め、思い思いの場所で体操やレクリエーションに参加され楽しく過ごされております。毎日時間に追われることなくゆったりされるひと時を作っています。全館バリアフリーにてトイレ・浴室・廊下も広々しておりゆったりとしたものになっています。日々の楽しみでもある食事は手作りで温かいものを提供しいつも皆様に喜んで頂いています。形態や量も個々の好みや状態に合わせた対応行っています。皆様、ご自分のペースで召し上がっております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人理念の下、利用者の尊厳を尊重し、「利用者の生活環境を大切に」を職員と共有し、実践に繋げている。利用者の生活の場である事業所で、穏やかに過ごすために、個々に合わせた食事、入浴、排せつができるように心掛けている。そのためには認知症でも、できることの継続や、その人らしい生活がおくれるよう過去の生活歴の把握をする他、毎日生活記録を記入し、ユニット会議で困りごとに対する打ち合わせをおこなっている。食事は、食材の購入から献立作り、調理まで職員がおこなっている。近隣の畑で利用者と一緒に収穫したトマトやインゲン、じゃが芋等が食卓に並び、利用者にも喜ばれている。ミカンを貰った後は、ホームでジャムを作って収穫者にお返しをした。誤った非常ベル音にも近隣が駆けつけてくれる等、日常的に地域との交流がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に掲げてあります。いつでも確認することが出来ます。リネンに沿ったケアを心がけております。	事業所理念は職員の目に触れ、日頃から理念を意識したケアの実践をしている。食事、排泄、入浴等、利用者個々のタイミングに合わせ、穏やかに過ごせるための介護、「基本的な介護」を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し自治会長も会議に参加して下さっています。近隣の方とは良い関係を維持しています。いつも野菜を頂き食事に使用させて頂いています。	ボランティアや自治会行事の参加は中止している。利用者は少人数で近隣を散歩する程度であるが、近隣から野菜やミカンを買ったり、もらったミカンでジャムを作り、お返しをする等の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催のグループホームの集まりに参加して認知症についての話し合いや情報交換など行き交流し色々参考にさせていただくこともありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ肺炎の影響で運営推進会議は事業所のみで実施しています。行政やご家族にも了解を頂いています。職員研修や入居者様参加の催しを実施しています。	コロナ禍前は民生委員や自治会長等の参加があったが、現在は職員と利用者とのみの開催としている。研修や行事等と一緒に2ヶ月に1回開催し、議事録は行政と地域包括支援センターに持参している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方より色々な情報をメールで頂いております。電話等で質問しても丁寧に対応して頂いています。	市主催で本庄市のグループホームが集まり、市役所で、講演や作品の展示を行い、認知症の理解を深める等、グループホームを周知をするための催しに参加をした。日頃から行政との協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を規定通り開催し研修も実施しております。職員が充分理解ケアを実践できるよう努めていきたいと思えます。	3ヶ月に1回、「身体拘束廃止委員会」を開催している。参加者は、その日の出勤者であり、資料は順番に職員が作成している。様々な事例が取り上げられ、身体拘束をしないケアについての情報共有を図り、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての委員会設置しました。法律も含め実際のケアの現場において虐待が行われることの無いよう職員全員で勉強し話あつていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のなかに後見人の制度を利用されている方がいます。制約もあり理解できていないこともたくさんあります。もっと理解を深めていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり説明行っています。質問にまわりやすく説明するように心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や支払いに来られた時には普段の様子など報告させて頂いています。運営推進会議でも色々な意見を聞かせて頂いています。	毎月利用料の支払いで来訪する際に、家族から意見や要望を聞いている。又毎月利用者の様子を郵送し、個々の希望を聴き取っている。職員の名前を覚えたいという意見があり、玄関に写真と名前を掲示した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や日常でも職員の要望や意見、提案を聞くことが出来ています。管理者は意見を代表者伝える役割をしています。	日常的に話しやすい環境を作り、随時職員から話を聴く他、会議や個人面談を実施し意見を聞いている。問題点や改善点はその都度話し合い、改善をしている。職員からの要望で休憩の取り方の話し合いを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与はきちんとアップしています。有給の付与も改善され職員は遠慮なく取ることが出来ています。研修の補助も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やウェブでの研修も奨励しています。個々の知識の向上を図り実践の場で生かしていけるよう人員配置にも気を配っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員として、研修に参加したり情報の収集に役立っています。近隣のグループホームの方とも交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望されている方の情報を頂き、ご家族やご本人からお話しをお聞きし質問には丁寧にお答えしています。環境の変化に不安を感じられることも多く少しでも軽減できるよう対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話しを傾聴し、一つずつ解りやすく説明することを心掛けています。できる限り要望を受け入れ不安を払拭することができるよう努めていきたいと思ひます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の今求めているニーズをしっかり把握し適切な支援を実施できるように努めています。一人ひとりにあったケアを行い必要であれば他のサービスも提案し協力していきたいと思ひます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状況を見極め、対応していきたいと思っております。出来ないことはお手伝いする、出来ることはお手伝いして頂くという関係を作りたいと思ひます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日々の様子を月次として写真と一緒に送付しております。ご家族にはとても分かりやすいと喜んで頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍において以前のように面会や外出はできていません。	コロナ禍前は、家族と外食やお墓参りに出かけていた。今は、携帯電話で家族や友人と会話をしたり、ホームの庭でフェンス越しになるが、家族や孫の顔を見る等で、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのかたの思いや性格や個性を配慮し、入居者間の円滑な関係を保つていけるように職員は努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との連携に努め、ご本人にとってより良いサービスを受けて頂けるよう支援行っています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれていることに気づいて対応していけるよう努めております。言葉にできない方もいらっしゃいますので思いをくみとることができるように努力していきたいと思っております。	毎日、一人ひとりの表情を見ながら会話をすることで、思いを把握するよう心掛けている。言葉を発することができない人も、その時の場面で現わす表情等から、思いを汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	皆様それぞれの状況や生活歴があります。情報を読み取り共有しその方を理解して支援につなげていきたいと思っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	環境の変化に戸惑うことが多くあります。出来る限り穂本人の望まれる生活が送れるように努めていきたいと思っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向をお聞きし、その方の状況状態にあった無理のない計画をカンファレンスで話し合い作成しています。	入居相談があると、自宅に出向き、本人と家族の希望やアセスメントをおこなっている。入居後は1週間程、様子を見ながら達成できる目標を設定し、本プランを作成している。6ヶ月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録、業務日誌、バイタル、排泄チェック表等を毎日記録することで職員のだれもが変化や確認をすることが出来ます。情報を共有しケアに活かしていきたいと考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりのニーズを把握してその状況に沿った対応ができるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今の状況では地域の方との交流は難しいです。ボランティア活動の催しも中止になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診を受けております。体調不良時には相談し指示を頂いております。コロナワクチン接種も施設内で実施して頂きました。	月2回、協力医の訪問診療がある。以前からの主治医に受診することも可能である。看護師は週1回、健康管理を行い、身体状況の変化の早期発見に努めている。他科受診は家族の付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師の配置があり、個々の状態の把握と医療的処置等お願いしています。相談することも多くありいつも適切にアドバイス頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供行い、ご家族、看護師、地域連携室とも連携し適切治療を受けて頂き、早期に退院に向け支援実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針は入居時に書面と口頭でご家族に説明し了承を頂いております。まごころで少しでも長く暮らしていきたいと希望される方も多くいらっしゃるため出来る限り意向に添えるように対応していきたいと思っております。	入居時に、重度化や終末期に向けた指針の説明を行い、署名を貰っている。医療行為が発生したり、口からの摂取ができない場合、医師から説明し、入院先を紹介している。現在は終末期は病院に入院するケースが多く、看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しています。使用法も定期的に研修行っています。連絡網も掲示しており、職員が慌てることなく対処できるように努めていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。近隣の方の協力も得られています。地域に居住されているご家族にも協力をお願いしていきたいと思っております。	年2回、昼夜を想定し消火訓練や避難訓練を行っている。火元を変える等、火元から遠い場所に避難する訓練をしている。地震には防災頭巾を備え、備蓄品として、飲料水、食料、ガスコンロ等を保存している。	災害対策として、ハザードマップ水害地域に該当しているため、水害対策のマニュアル作成を完成させ、避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	原則入浴は一人ずつ実施しています。排泄の介助や交換等もさりげなく行っていきたくて思っています。出来なくなられてきたことも傷つけないようお手伝いしていきたくて思っています。	個人情報の管理は事務所でを行い、職員が不在になる時は、ドアに鍵をかけている。会議は書面で確認する等、個人名が聞かれないように注意をしている。年に1回研修を行いプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話には耳を傾けるよう心がけています。ほぼ言葉を発しない方もおり、日々の表情やしぐさなど観察し思いに気づけるように支援していきたくて思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを尊重しできる限り自由に過ごして頂くよう対応しています。レクや体操も声掛けしその方の意志で参加されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカット受けられています。毎朝きれいにお化粧をされるかたがいます。張り合いになっているようです。家族からのプレゼントの洋服を喜んで着ていらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎日の楽しみになっています。誕生日や季節の行事では皆様の好みを考え手作りを心がけ喜んで頂いています。	食事は食材の買い出しから、メニュー作り、調理まですべて職員がおこなっている。利用者はテーブル拭きを手伝い、手作りの食事を楽しみにしている。近隣からもらった季節の食材も利用して調理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良いメニューを食べやすい形態で提供しています。量も個人に合わせてお出ししています。水分も適量摂って頂けるよう工夫してお出ししています。好みや好き嫌いにも配慮しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを実施しています。ご自分で出来ない方は介助にて行っております。義歯もお預かりし洗浄消毒実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた支援おこなっています。できる限りトイレにて排泄して頂けるよう対応しています。尿意がわからない方もいらっしゃいます。不快感のないように対応しています。	排泄チェック表により定時の声かけの他、利用者の仕草や、習慣を見逃さずにその都度支援を行うことで、失禁が減ってきている。ズボンを着脱しやすい物に変更することも、自立支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入しています。個々にタイミングや周期が異なるため記録を確認し対応しています。水分補給や体を動かして頂くなどして排便促しています。便秘の時には適切に医師からの処方薬を服薬支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつゆっくり入って頂いております。ご自分でできることはして頂きながらその方に合わせた支援を行っております。皆様気持ちよく入浴して頂いております。	基本週2回、午前中に入浴を行うが、希望があれば増回も可能である。利用者はゆっくりと普段と違う会話を楽しみながら入浴をしている。入浴嫌いな人には、時間や職員を変え、個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様が自分のペースで生活できるように支援しています。食休みや昼寝も個人のペースで頂いています。夜間も居室で自由にされた後皆様入眠されます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルがあります。いつも確認することが出来ます。たいちょうの変化や食欲不振などみられたら情報を共有し主治医や看護師に相談し対応しております。飲み忘れや誤薬のないように注意し服薬介助行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴やご本人の得意とされることを把握しその方にあつたお手伝いや役割を持って頂き今の能力の維持にも努めていきたいと思ひます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の状況にて外出の機会はほとんどありません。ご家族も理解して下さり外食等も控えて下さっております。終息したときには外出の支援をしていきたいと思ひます。	コロナ禍で外出の制限があるが、事業所内で楽しめるよう、カラオケや体操、懐かしのメロディーを聴く等、楽しめる支援をおこなっている。又、筋力低下予防の為に廊下を毎日歩いたり、ユニット間の交流をし、現在できる支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の小遣いは家族よりお預かりし事務所でお預かりし管理しています。欲しい物の買い物等に使っています。バッグの中に財布と少量のお金を所持されている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。ご希望があれば電話をかけることは可能です。家族の声を聞かれるととてもこやかにられます。皆様家族に年賀状をお出ししました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室より、ホールで過ごされることが多いので、いつも明るく清潔を保てるように心掛けています。温度や湿度にも気を付けて心地よく生活して頂けるよう努めています。	共有空間には、利用者と一緒に作った季節の作品を飾り、職員は作品を見ながら利用者と会話をしたり、レクリエーションをして過ごしている。温度と加湿を調整したり、定期的な換気と消毒で清潔を保ち、居心地良く過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな場所でゆくり寛げるように支援しております。午前中は日のあたるソファは皆様の人気の場所でも話されながら過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にご自分になじみの物を入れて頂くようにしています。配置も家族と相談し、安全を保てる配置にしています。好きな人形と一緒に寝ていらっしゃる方もおります。	馴染みの家具で、仏壇やテレビ、本、好きな音楽のCD等を持参し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。居室の掃除は職員が行い、手伝える人はモップがけを一緒に行い、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーになっており、トイレ、浴室、廊下も充分の広さとなります。手摺りの設置により安全に歩行することができます。「トイレ」とドアに大きく提示し居室も名前や写真を提示しご自分の部屋と認識して頂けるようにしています。		